

大垣市 1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

本市では令和2年5月に、「大垣市版GIGAスクール構想」を策定し、主体的に学習に取り組む態度の育成を目指す教育を推進し、確かな学力を身に付け、グローバルな時代を生き抜く資質・能力を身に付けた児童生徒を育成している。

そこで、児童生徒がICTを活用した「目指す学びの姿」を以下のように設定した。

- 一人ひとりが自分の興味関心に応じて、学び方やICTツールを選択して、主体的に学習する姿。
- 授業の中で、一人ひとりが自分の考えや意見をリアルタイムに示したり、表現したりする姿。
- 収集した資料をもとに構築した考えを即時的に交流したり、議論したりすることで、学習を深める姿。

2 GIGA第1期の総括

【教員の授業改善について】

- ・各小中学校では、日常的に一人一台端末を使用しており、基本的な操作ができる教員の割合は9割を超えている。
- ・単元・単位時間の中で、特に協働的な学びを充実させるために、ICTの効果的な活用場面を精査した授業改善に取り組んでいる。

【端末及び通信ネットワークの環境について】

- ・児童生徒が各家庭においても、学習に使用できるよう、全員がLTE回線において、いつでもどこでも使用できる環境を整えている。
その結果、低学年の段階から、校外での使用が見られた。
- ・教育委員会と委託業者が連携したことで、故障等の対応、アプリの更新の不具合対応など、どの事例においても、概ね1日で解消した。

【端末活用の推進について】

- ・一人一台端末の効果的な活用を促進するために、GIGA支援員を4名配置し、各校年間3回以上の派遣を行う中で、授業に関する支援、事前相談、授業参観後の指導等を行った。
また、その内容を市独自のポータルサイトに掲載し、効果的な活用事例を市内の教職員に広めた。

【成果と課題】

- 小学校1年生の段階から協働学習支援ツールを活用して、自らの考えを広めたり、他者からの考えを取り入れたりする姿が多くなった。
- 協働学習支援ツールを活かして授業を展開する教師の割合が高まったことから、収集した資料や現在の考えなどを、児童生徒が即時的に交流し、効率よく学習を進める授業が多くなった。

【協働学習支援ツールを活用して授業ができる教師の割合：80%】

※本市独自の活用状況調査より

- 一人ひとりの定着度に合わせてドリル学習に取り組ませたり、学習方法を選択させたりするなど、児童生徒自身が、学び方を選択できるように取り組みから、iPadの必要性を感じる児童生徒の割合が高まった。

【Q. 学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。】

小学生：95% 中学生：95% （R5全国学力学習状況調査）

- 低学年の段階からさまざまな教育活動において活用を推進していくことで、課題解決に向けた「個別最適な学び」につながるように取り組む必要がある。
- 教師が学び方を示すだけでなく、必要に応じてICTの使用方法を選択できる機会を設けるなど、児童生徒に最適な学び方の選択を委ねることで、主体的に課題解決に取り組めるような授業改善を図っていく。
- 「GIGA支援訪問」で収集した効果的な活用事例を通して、今後も様々な実践例を市独自のポータルサイトを通して市内の教職員へ周知していく。

3 1人1台端末の利活用方策

ICTの活用方法の事例

- (1) 示範（撮影動画、コンテンツ等）の全体再生と個別再生
- (2) 協働アプリケーションによる表現活動の精選・構成
- (3) 個別調査（ネット）と調査内容の全体への情報共有（表示、投影）
- (4) 個別ドリル学習、学習の定着状況の分析、指導・支援
- (5) デジタル教材による思考補助（例：空間図形コンテンツ）
- (6) 思考ツールによる個別の考えの整理・まとめ、全体との共有
- (7) 個別撮影（資料収集）、蓄積、調査・分析（ネット）、全体との共有
- (8) 相互動画撮影・再生による分析、全体への情報提供
- (9) 画面上シミュレーション（試行・制作構想）と進捗確認、情報共有
- (10) 個別通信と全体との共有

各教科における具体的な活用例

- | | |
|---|------|
| 国語…発表時における話し合い活動やスピーチ等への感想交流 | (3) |
| 古典や俳句等の検索による、共通点やリズムの発見 | (2) |
| 社会…個人が収集した情報の共有と資料の分類・整理 | (6) |
| 検索による収集した情報の信頼性や信憑性の吟味 | (7) |
| 算数…多様な考えを共有し、共通点や相違点見出す活動 | (2) |
| ドリル学習やデジタル教科書の動画機能を用いた個に応じた学習 | (4) |
| 理科…実験結果をもとにした考察の交流と新たな課題発見 | (7) |
| 動画視聴による、自然現象等の実感を伴った理解 | (5) |
| 英語…海外との子どもとのつながりや、英語での交流活動 | (10) |
| スピーキングの音声認識機能アプリを用いた言語検索及び、
発音や会話の練習 | (1) |
| 美術…カメラ機能等を用いた作品の鑑賞及び感想交流 | (1) |
| 感想やアドバイスをもとにした、作品の修正・工夫 | (9) |
| 音楽…カメラ機能を用いた合奏や合唱の練習及び工夫改善 | (8) |
| アプリを用いた、リズムや簡単な旋律の作成 | (5) |
| 体育…動画をもとにしたペアやグループ交流による技能の向上 | (1) |
| カメラ機能を用いた演技等の録画によるクラウド保存と改
善ポイントの可視化 | (8) |
| 技術・家庭…録画した裁縫動画や調理の様子振り返り | (7) |
| 衣食住に関わる調べ学習と今後の生活への課題解決 | (3) |

4 1人1台端末を活用した学びを保障

本市においては、第一期当初より、不登校対策として、一人一台端末を利用したオンライン授業を行っている。また、病気等の院内で生活している児童生徒にも同様の対応を行っている。さらに、外国人児童生徒や特別な支援を必要とする児童生徒にも必要なアプリ等も搭載し、児童生徒が自分の意志で活用できるように整備している。

一方で、引きこもり傾向にある児童生徒へのアプローチには課題があり、家庭訪問を行うことはできても、対面での支援は難しい状況の家庭も多い。また、外国人児童生徒への端末を用いた学習には十分な支援が行えていない。

そこで、第2期では以下のように目標を定めていく。

- ・希望する不登校児童生徒への支援

- 各校に必要な予備機を配置し、日常的なオンライン授業を実施 (R8:100%)

- ・希望する児童生徒への端末を活用した教育相談

- インターネット仮想空間やオンラインシステムを用いた教育相談を実施
(R8:100%)

- ・外国人児童生徒に対する学習活動等の支援

- 一人一IDを有効活用したブラウザアプリの活用による学習支援の実施
(R8:100%)

- ・障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に
応じた支援

- 各校に必要な予備機を配置し、オンライン授業や授業支援を実施 (R8:100%)

「大垣市版GIGAスクール構想」の実現に向けて、現在と同じ環境を維持していくために、令和8年1月末にiPadの更新時期を迎えるにあたり、児童生徒向けの1人1台端末環境を、引き続き、維持していきたい。